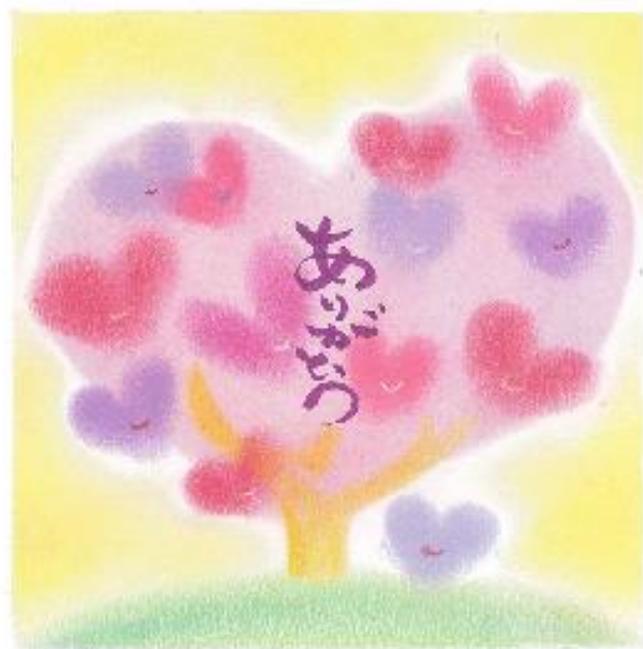


緩和ケア棟

総合病院 南生協病院



開設 20周年 記念誌

総合病院南生協病院緩和ケア病棟20周年記念誌 目次

南医療生活協同組合理事長 緩和ケア病棟管理医長 長江 浩幸	P. 1
南生協病院 院長 水野 裕元	P. 2
南生協病院 副院長 長田 芳幸	
南生協病院 医師 橋本 優子	
南生協病院 医師 藤田 亜紀子	P. 3
南生協病院 医師 中澤 俊之	
よってって在宅診療所 医師 梅村 想	
南医療生活協同組合 看護部長 福島 みさ代	P. 4
南生協病院 緩和ケア病棟 課長 清水 多江子	
南生協病院 緩和ケア病棟 主任 入口 久美子	
南生協病院 薬剤科 科長 中島 瑞紀	P. 5
南生協病院 リハビリテーション科 河内 隼	
南生協病院 栄養支援室 横山 一成	
南生協病院 相談連携室 川上 瞳	
緩和ケア病棟の取り組み紹介	P. 6
グリーンケア係 梅田、馬越、木本	
ボランティア係 松田、船江、天野	
通信係 尾崎、関島、長坂	
学習係 三ツ井、那須、古田	
緩和ケア病棟ボランティア活動紹介	P. 7. 8
ボランティア紹介	P. 9. 10
緩和ケア病棟統計データ	P. 11. 12
緩和ケア病棟のご利用方法	P. 13

南生協病院緩和ケア病棟開設20周年によせて

南医療生活協同組合理事長
南生協病院緩和ケア病棟医長
長江 浩幸

2002年6月1日南生協の緩和ケア病棟が開設され、今年で20年を迎えました。この間3,800人余りの方が利用され、最期をここで過ごせてよかったとの声をいただいています。

南生協病院は地域の住民が出資し、運営し、利用する協同組合の病院です。出資されている組合員さんにとって南生協病院は「私の病院」です。

インターネットもない90年頃、生協病院では、みんなで情報をあつめ、経験を交流する患者会活動が盛んでした。

「癌告知」をするかしないかといっていた時代ですが、乳癌の方はほぼ全員が告知されていました。きちんと情報を持つことは安心と同時に不安にもなり患者会の役割は大でした。患者の中には不幸にして癌が進行する方もあり、「私の病院」（南生協病院）で最後まで診てほしいとの声が高まりました。そんな声を形にしたのが「南生協病院の緩和ケア病棟」です。

病棟開設の準備段階ではスタッフと組合員（おもに患者会メンバー）と一緒にプロジェクトチームを作り、どんな病棟にしようか話し合いました。

市民の意見を取り入れて先行して開設された愛知ホスピスに見学にゆくと、最後まで排泄はポータブルトイレではなく、ちゃんとしたトイレでしたいとの市民の声にこたえ、ベッドの横にトイレを設置してありました。この配置は当院でも取り入れ、2010年新病院移転時には、設計士さんの反対がありましたが、半分の病室はこのレイアウトになっています。

緩和ケア病棟でどんなボランティア活動をするかチームで意見交換をしました。専門職は、緩和ケアなのだからと、ボランティアにいろいろ複雑な役割を期待していました。患者さん代表からは、自分が手術で入院したとき、暗い病室で過ごす、身体だけでなく心も「がん」に侵されそうになった。新しい病棟では、私たちがボランティアになり、入院していても外の世界とのつながりを感じられる、みんなをつなぐ「かけはし」になりたい。そのために、毎日、心をこめたお茶の提供と部屋をお花で飾るサービスをしたいと提案されました。少し「物足りない」と思いましたが、20年間ほぼ毎日このサービスが提供され、多くの患者さん家族に「ここはいごこちがよい」「ボランティアさんに感謝」と喜ばれています。利用者さん目線での着実な活動が、緩和ケア病棟になくてはならない活動になっています。

病棟運営も最初は「生ききることを応援します」とやや気負っていました。実際、多くの方と接する中、それぞれの人生、それぞれの生き方があり、緩和ケア病棟へ求めるものも様々であると気づきました。いまは「（残された時間を）穏やかに過ごせるようお手伝いします」と、その人その人に合わせた対応を心がけています。

2020年からの新型コロナ感染は緩和ケア病棟の様相を一変させました。ボランティア活動が休止され、自由だった面会も制限が多くなり、面会できないなら自宅で過ごしますという方も増えています。逆に自宅療養していたけれど、いよいよ限界になり緊急入院という方も目立つようになりました。

これからの緩和ケア病棟は、がんで不幸な転帰になったとしても、住み慣れた地域で最期まで暮らすのに役立つことが重要と考えています。病棟だけで完結せず、在宅の先生や訪問看護、介護施設との連携が重要です。核家族がふえ、家族の介護力も低下する中、地域・いろいろな団体、個人との連携も必要になるでしょう。みんなで地域を守ってゆきたいと思います。これからもよろしく願いいたします。



総合病院南生協病院 院長 水野 裕元



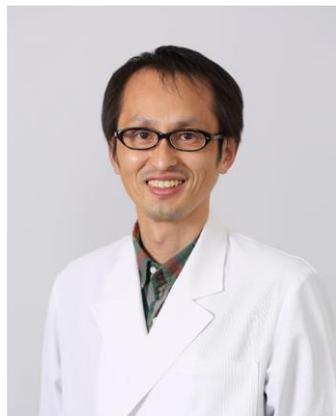
2002年に世界保健機関（WHO）は、「緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面する患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的、心理的、社会的な問題、さらにスピリチュアな問題を早期に発見し、的確な評価と処置を行うことによって、苦痛を予防したり和らげることで、QOLを改善する行為である。」と決めました。続いて、「生命（人生）を尊重し、死ぬことをごく自然な過程であると認める」、「死を迎えるまで患者が人生をできる限り積極的に生きてゆけるように支える」など、他5つの提言が記述されました。

今後やってくる高齢化社会では、高度・先進的医療の環境において、癌ばかりでなく、様々な疾患の終末期が増えてくるでしょう。

当院の緩和ケア病棟では、上記の提言に則り、その役割を遂行し、より良い療養生活を送って頂けるよう、ボランティアさんたちにも協力してもらっています。ご自宅での療養の希望があれば、退院もでき、訪問診療医、訪問看護師などと連携しながら、在宅療養を応援しています。

最良の緩和ケア実現のためには、地域の皆様方との連携と協力が大変重要となります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

総合病院南生協病院 副院長 長田 芳幸



当院の緩和ケア病棟は、病院と在宅や施設の中間的な存在であると思っています。そして、ご本人様やご家族様にもそのような想いで説明しています。

私が研修医になってから18年が経ちますが、その時と変わらないことがあります。それは、緩和ケア病棟を支えるボランティアさんの存在です。コロナ禍でボランティアさんの活動も制限されています。それでも、緩和ケア病棟の、病院とは違った雰囲気を作っているのは、ボランティアさんの日々の活動が大きいのと考えています。

また、他の病棟とは違い看護師さんの、患者さんへ主体的に寄り添う姿勢も、大きな特徴であると考えています。

今後も変わらず、患者様のための病棟であってほしいと願っています。

総合病院南生協病院 医師 橋本 優子



緩和ケアにたずさわり5年が経ちました。長江先生のご指導のもとに終末期医療を学び、個人的にはがん患者に対する心理療法を勉強しています。

様々なケースがありますが、「最期まで人として生きることが出来る」緩和ケアを提供できるように、今後も精進したいと思います。

総合病院南生協病院 医師 藤田 亜紀子



緩和ケア病棟20周年おめでとうございます。

長江先生、橋本先生始め、スタッフのみなさんが、この厳しいコロナ禍でも精一杯、生ききることを支えることに尽力を尽くされ、本当にわずかですが、そこに関わりを持たせていただけることに、感謝の気持ちでいっぱいです。



総合病院南生協病院 医師 中澤 俊之

緩和ケア病棟20周年おめでとうございます。

私が医療を行っていくなかで、もっとも大切にしたいことは究極的には「心と体のつらさを取り除くこと」だと考えています。

外科で、癌の患者さんとともに治療に取り組んで行くなかで、当院には長きにわたり緩和ケア病棟という「心と体のつらさを取り除く場所」があることは大変すばらしく、頼もしいことだと感じています。

個々の患者さんにとって、穏やかに、つらさを少なく過ごしていけるためにはどうしていったらよいか、緩和ケア病棟のスタッフの方とともに考え、そういった場所を提供していけたらと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

よってって在宅診療所 医師 梅村 想



僕は、住み慣れた場所（自宅・施設）で過ごすことを精一杯支援しています。ただ、様々な事情により自宅・施設での生活が難しくなることもあります。予期せぬ急激な病状悪化や、家族の疲弊、本人の気持ちの変化、などです。

そのような時に、南生協病院緩和ケア病棟はとても頼りになります。突然の入院依頼であっても迅速に対応してもらえたことは、一度や二度ではありません。評判が良すぎて満床のことがあるのが唯一の弱点です。

どのような患者さんの希望にも寄り添う環境にあるということが、南医療生協の強みだと思います。

これからも緩和ケア病棟とともに、地域のために貢献していきたいと思っています。

南医療生活協同組合 看護部長 福島 みさ代



20年前、私は縁があって緩和ケア病棟の開設に携わることになりました。患者会の方々とともに勉強会をしたり、他院の緩和ケア病棟を見学したり、「こんな緩和ケア病棟にしたい」等といろいろ話し合ったことも、保育園児だった娘を連れてテープカットに参加したことも、開設初日の夜勤ではなんだか緊張して仮眠できずにずっと起きていたことも、緩和ケア病棟通信の発行を始めたことも、今はとても懐かしく、貴重な体験をさせて頂けたと感謝しています。

開設して20年が経過する中では、緩和ケア病棟を取り巻く状況の変化がありました。ひとつは診療報酬の改定で、もうひとつは2020年2月頃から流行した新型コロナウイルス感染症です。

診療報酬改訂では、入院期間の短縮、退院調整が余儀なくされ、看護師にとっても、患者様への関わり方の大きな転換を求められたものだったと思います。

新型コロナウイルス感染症の影響は、面会やボランティア活動の制限が大きいと思います。自由な面会やボランティア活動をしてもらいたい気持ちと感染症のクラスターを起こしてはならない責任との難しい両立が求められ、今なお継続しています。看護師はとても苦しんでいますが、患者様やご家族の苦しさを思うと言葉で表せません。

状況の変化はあっても、患者様やご家族に寄り添い、ボランティアさんも含めた多職種で、その人らしく生きる支援を大切にすることは変わっていないと感じています。



総合病院南生協病院 緩和ケア病棟課長 清水 多江子

私は6年前に1年弱の期間ではありましたが、当院緩和ケア病棟で勤務していました。その時は、病棟でボランティアさんが患者様と直接関わる姿や、夏のイベントなどで患者様・ご家族・ボランティア・スタッフが一緒になって楽しく過ごしたり、屋上庭園から花火を眺めたりする姿や、音楽療法中に涙されるご家族を目の当たりして、他の病棟では見られないその空間に驚いたことを思い出します。

その頃は、自由に面会や付添いができ、患者様の傍らにご家族が好きな時間に、近くで寄り添い声をかけたり、身体に触れたりしていただいていた。しかし、現在はCOVID-19によって、かなりの制限をしなければならず、患者様ご家族に対して満足いく療養生活を送っていただけないことを痛感しております。

現在は、ボランティア介入については、COVID-19のフェーズに合わせて行っています。また、面会制限があるときには、ZOOM面会など、今できることを模索しながら行っています。

これまでのように、最期のそのときまで痛みや苦痛が少なくその人らしく穏やかに過ごして頂くための関わりや、「住み慣れた自宅へ戻りたい」などの思いにも応えられるように、院内外の他職種と連携をとり、地域でも安心して暮らせるお手伝いを引き続きさせていただきます。

そして、「南生協病院の緩和ケア病棟に来てよかった。」と言っていただけのように、次の20年に繋がるよう、スタッフ一同取り組んでいきたいと思っています。

総合病院南生協病院 緩和ケア病棟主任 入口 久美子

緩和ケア病棟では患者様一人ひとりの人生や生活において大切にしてきたことや希望を持ち続けることを受け止めて、その人らしさを尊重したケアができるよう心がけています。コロナ禍により今までの療養環境とは違いますが、患者様・ご家族が穏やかに過ごして頂くお手伝いができればと思っています。

総合病院南生協病院 薬剤科科長 中島 瑞紀

化学療法から緩和ケア領域に携わって12年ほど経ちます。薬物療法で苦痛な症状を全て緩和することはとても難しく、薬物だけではどうにもならない事をいくつも経験しました。そのような状況では医療スタッフやボランティアの方々からの心温かいケアや、癒しの時間がどれだけ大切でありましょうか。何も語らなくてもいい、傍に居るだけで心安らぐ、緩和ケア病棟はそんな空間で有り続けてほしいと願います。



声は届いている、握った手の温かみは感じてくださっている、薬剤師でも薬物療法以外のケアも忘れずに向き合っていきたいと思っています。

総合病院南生協病院 リハビリテーション科 理学療法士 河内 隼



緩和ケア病棟開設20周年おめでとうございます。

緩和ケアでのリハビリでは、辛い治療を乗り越えて入院してきた患者様たちの『動きたい』『気分転換したい』『痛みが楽になりたい』『自宅に帰りたい』など様々な希望を叶える、やりたいことを実現するためのリハビリを提供しています。

身体機能維持だけではなく、精神面でのサポートもできる関わりを心がけ、やりたいと思った事はなるべく『アイディアをだして』『早めに』『安全に』『苦痛なく』『後悔のなく』やれるように最期までサポートします。

総合病院南生協病院 栄養支援室 管理栄養士 横山 一成



緩和ケア病棟設立20周年おめでとうございます。

栄養支援室では昨年からは緩和ケア病棟にて「セレクトメニュー」を開始し、2年間で延べ150食に及ぶご利用がございました。最期に食べることになるかもしれない食事を楽しんで頂けるように、個々での聞き取りも行いながら食事の対応をさせていただいています。「わがままをいってごめんなさい。」と言われる患者様もみえますが、食事を楽しむことは、誰しもが持つ大切な・こころの栄養補給です。

最期まで無理なく楽しんでお食事ができるよう、今後も栄養支援室スタッフ一同尽力させていただきます。

総合病院南生協病院 相談連携室 看護師 川上 瞳

緩和ケア病棟設立20周年おめでとうございます。

患者様・ご家族の「自宅に帰りたい」思いに寄り添い、在宅でも安心して過ごせる在宅調整や施設への退院調整をおこなっています。

これからも、患者様の大切な時間を穏やかに過ごせるよう、お手伝いさせていただきたいと思っています。

～緩和ケア病棟の取り組みのご紹介～

緩和ケア病棟の取り組みの内容を一部紹介させていただきたいと思います。
それぞれスタッフが委員会や係などのグループに分かれて取り組んでいます。

*病棟以外の取り組みではACP委員会や緩和回診も院内の取り組みで定期的に行われています。

*** グリーフケア係 *** 担当看護師：梅田、馬越、木本

グリーフケアとは大切な人との別れ（死別）による深い悲しみを乗り越えられるまでのケアのことです。

緩和ケア病棟では、大切な方を亡くされたご家族に集まっていただき、語り合うことで心を癒す事を目的としたグリーフケアの一環として、年に2回、「さくらんぼの会」という遺族会を開催しています。

悲しみに向き合っているのは看護師も同じです。看護師のグリーフケアとしてデスカンファレンスを行ない、自分たちの看護を振り返る機会としています。



*** ボランティア係 *** 担当看護師：松田、船江、天野

みなさん、こんにちは。ボランティア係です。

私たちはボランティアさんと協力し、お茶の時間や音楽療法の時間・季節のイベントを企画して行っています。ここ数年は、新型コロナの影響で、思うように活動できていないですが、感染が落ち着いている時には、お茶の時間や音楽療法の時間を提供できるよう、出来る範囲のことを行っています。ボランティアさんの代わりは務まりませんが、患者さんやご家族さんに穏やかでよりよい時間を過ごしてもらえるように取り組んでいます。

*** 通信係 *** 担当看護師：尾崎、長坂、関島

南生協病院の緩和ケア病棟を紹介するために、病棟の行事や患者様・ご家族様の声などを緩和ケア病棟の日常や雰囲気が伝わるよう発行しています。緩和ケア病棟では季節のイベントやお誕生日会など患者様に日々の過ごし方をのせています。現在はコロナ禍もあり以前のようにイベントができていないのが残念です。

また、広く緩和ケアを知っていただく為に、私たちが行っている症状緩和の看護についても紹介しております。ぜひ参考にさせていただけるとうれしいです。



南生協病院HPへ！
<https://www.minami-hp.jp/>

*** 学習係 *** 担当看護師：三ツ井・古田・那須

緩和ケア病棟では、医療用麻薬を使用している患者様が多いので、スタッフ全員が医療用麻薬について正しい知識を持って、適切に使用できるように定期的に勉強会を行っています。麻薬以外にも栄養状態を維持するための栄養剤の勉強会や、寝たきりの患者様が多いため、褥瘡に関する勉強会などを行い、日々のケアに生かしています。



～緩和ケア病棟ボランティア『かけはし』活動紹介～

【活動日】

日曜～金曜 午後2時～4時（基本的な活動時間）

【活動内容】

- ・ お茶会（随時おやつを付ける）
- ・ メニュー（コーヒー・紅茶・緑茶・ココア・抹茶・カキ氷・ハーブティ）
- ・ 花の手入れ（各病室・談話・トイレ・ナースステーション）
- ・ 病棟内の季節に応じた飾り付け
タペストリー（桜・柿・魚等）、クリスマス飾り、正月飾り、写真、絵、患者様の作品等
- ・ 糸ぐるま（手芸部） 毎週水曜日午後1時～3時
- ・ バザーで販売する小物（袋物・帽子・ブローチ・ストラップ等）を作成
- ・ 患者様の使うものを作成
- ・ バザー 毎月第一土曜日病院JR側玄関前にて手芸作品を展示販売行っている
- ・ 季節の行事
- ・ 鏡開き、夏祭り、流しそうめん、クリスマス会
- ・ おやつ作り（おこしもの、桜餅、草だんご、フルーツ白玉、お月見団子、かぼちゃプリン、鬼まんじゅう、シフォンケーキ等）
- ・ リース作り



【会費】

1000円／年

【運営委員会】

ボランティア 3名、職員1名
毎月第1土曜日午後1：30～2：30

【総会】

1回／年 1年間の活動報告、会計報告、学習会、交流会

【会員数】

	登録数	実働数	糸ぐるま	屋上庭園	不定期	エーザイ	アロマ	音楽療法士
H28年度	39	21	6	1	8	3	2	
H29年度	43	23	6	1	7	3	2	1
H30年度	44	25	4	1	7	3	1	3
R元年度	50	31	4	1	7	5	1	3
R2年度	31	21	4	1	9	5	1	2

【活動日数】

年度	活動日数
2016年度	259日
2017年度	236日
2018年度	231日
2019年度	245日
2020年度	100日

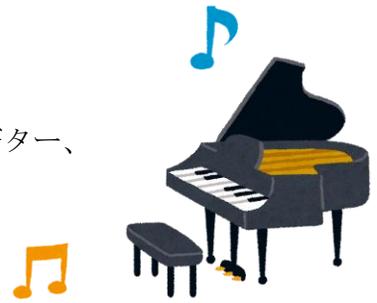


*エーザイ：（株）エーザイ川島工園社員



【音楽ボランティア】

- ・定例コンサート
音楽療法：毎週木曜日 琴：毎月第3金曜日（2020年より中止）
- ・定例外コンサート
オカリナ（ブルーボネット）、馬頭琴、リコーダー、歌の会、ギター、バイオリン&フルート（甘味亭）



【かけはし主催学習会】

- ・「終活について」
- ・「仲間と良い関係を築く方法」
- ・「音楽療法の活動について」
- ・「安心して住み続けられる地域をめざして」～おたがいさまシートがつくる地域のつながり～
- ・「緩和ケア病棟の利用法」
- ・「緩の今とこれから」「緩和への想い」「せん妄とセデーション」
- ・「新型コロナウイルス感染症について」今までの経過と今後の見通し
- ・ボランティア再開に向けての説明会と手洗い講習会

【学会・他団体主催学習会】

- ・欧米に寝たきり老人はいない ～自分が決める人生最後の医療～
- ・第24回日本ホスピス在宅ケア研究会全国大会in久留米
- ・緩和ケア病棟15周年記念講演会
- ・「緩和ケア病棟開設15年のあゆみとこれから」
- ・「在宅ホスピス医（内藤いづみ氏）からのメッセージ」～いのちの主人公はあなた～
- ・日本病院ボランティア協会東海地区交流会かけはしの活動紹介
- ・あいちホスピス研究会公開講座
- ・三重生と死を考える会講演会
- ・映画「いきたひ」鑑賞と講演会
- ・ルミナリエ
- ・「かけはし」活動紹介トライデントスポーツ医療看護専門学校（大池講師）
- ・中日新聞社白名氏よりの取材を受ける

【ボランティア研修】

	看護師	看護学生	インターン	大学生	医学生	研修医	高校生	その他
H28年度	-	-	16	7	1	1	1	-
H29年度	7	-	21	8	2	-	-	2
H30年度	2	-	9	2	4	-	-	-
R元年度	3	4	13	-	1	-	-	1
R2年度	0	5	0	-	-	-	-	-

【新型コロナウイルス感染症への対応】

- ・緊急事態宣言発令中は活動休止
- ・マスク、感染対応メガネorフェイスシールドの着用
- ・活動時間変更14：30～16：00
- ・病室へ花をいけることを中止（送り花のみ）
かわりにクラフトの作品やリースを飾る
- ・おやつ作り、季節の行事、定例外コンサート、バザー中止
- ・病室へ入る人を限定する



～各曜日のボランティアさん活動紹介～



【かけはし代表】 大池静江
 メンバー、一人一人がもち味を発揮し又、それが上手に混ざり合いながら活動が進んでいきます。
 コロナ禍でもいろいろ工夫をして、看護師さんの協力のもと活動ができることを嬉しく思っています。

【ガーデニング担当】 大池治雄
 屋上庭園の花園の世話をしています。一年中何らかの花を咲かせるのは意外に難しいです。
 皆様が花園をご覧になって楽しんで頂けるよう、それとなく気を配っています。



【月曜日】 中島敏子・肥田敬子
 コロナ禍で、以前のように四季のお花やお茶のサービスが出来ず残念です。
 このお菓子なんというの…？お茶は…？かき氷はいつものスペシャルね…！とかわす言葉にも喜びをいただいていたので淋しく、一日も早く笑顔で活動出来る日を楽しみにしています。

【火曜日】 佐々木笑子・五十嵐千代子・青木勝正
 火曜組は元気はつらつの佐々木さん、しっかりものの五十嵐さん、数少ない男の青木で仲良く活動しています。



～各曜日のボランティアさん活動紹介～



【水曜日】鈴木晃子・伊藤増子

水曜日はメンバーの入れ替わりもありましたが、ゆったりまったりの雰囲気は引き継がれており、いつも気持ち良く活動させていただいています。
普段はそそっかしい私たちですが、この時間は一杯一杯心を込めてお茶をお出しするよう、一同頑張っています。

【木曜日】谷下澤敏恵・岡崎幸代・中垣純代

音楽療法があり笑顔や時に患者さんの歌声も聞こえてにぎやかです。以前のように音楽を聴きながらお茶を飲みお話ができる日を待ち侘びています。



【日曜日】西野典子・稲田博・小林新一・稲垣美樹

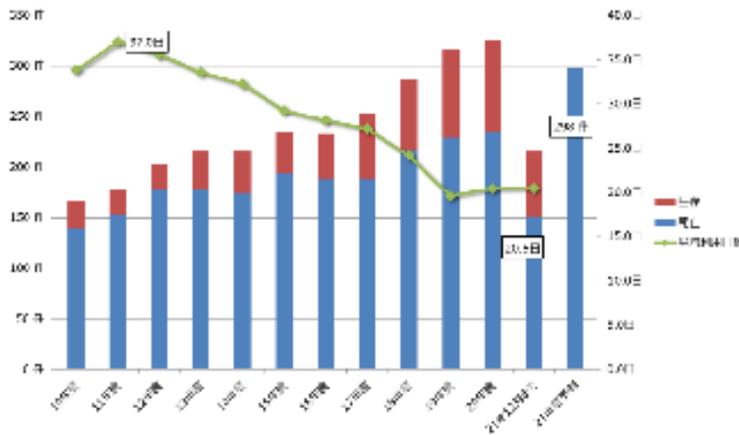
コロナ禍前の日曜日は面会の方も多く、談話室もなごやかな雰囲気でした。その中でお茶サービスや患者様とのお話しは「かけはし」にとって大事な時間でした。早く制限のない緩和ケア病棟が戻りますよう。

【音楽療法士】松巾知江美・柳田浩子
看護師、ボランティアの方々にご協力いただきながら、毎週木曜日に活動しています。穏やかな病棟生活の一助になれば幸いです。



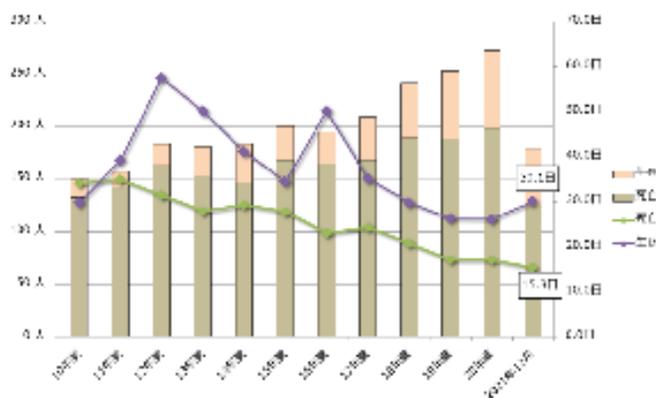
南生協病院 緩和ケア病棟利用状況 2010.4.1-2021.12.20

入院患者の推移 2010年から2021年12月



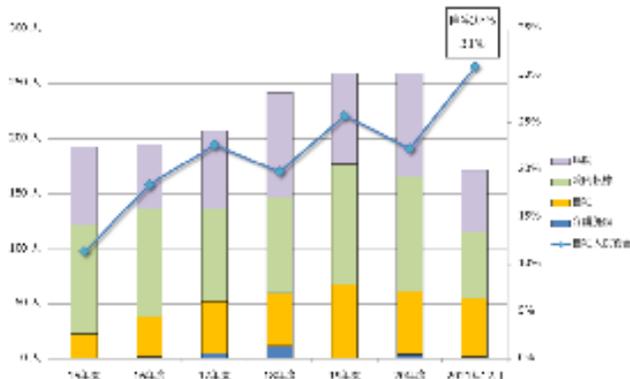
利用日数が短縮。のべ利用者数は年間300人を超えました。コロナ禍のためか21年は利用者数がやや減少しています。

初回入院患者数と転帰の推移



入院後、亡くなる方の利用日数が短縮
コロナ禍で自宅にぎりぎりまでいて入院する方が増加しています

入院経路 (初回入院)



コロナ禍の21年は自宅からの入院が大幅に増加
緊急入院が増えました。

～初回利用時の紹介元について～

2020年4月～2022年3月までの2年間に、
下記の病院・診療所からご紹介をいただきました。

下記以外にも、ご紹介がお一人の施設が67施設ありました。

紹介元	人数
大同病院	65
中京病院	33
国立長寿医療研究センター	33
だいどうクリニック	25
名古屋大学医学部附属病院	24
名古屋市立大学病院	20
半田市立半田病院	20
愛知県がんセンター	19
名古屋記念病院	11
藤田医科大学病院	9
よってって在宅診療所	8
緑市民病院	7
中部労災病院	6
みどり訪問クリニック	6
いきいき在宅クリニック	6
笠寺病院	6
名古屋第二赤十字病院	5
名古屋医療センター	5
山口病院	4
愛知医科大学病院	4
木の香往診クリニック	3
やすい内科	3
つかむら医院	2
トータルサポートクリニック	2
名古屋セントラル病院	2
名古屋第一赤十字病院	2
三つ葉在宅クリニック	2
尾崎山内科クリニック	2
にん内科	2
名古屋西病院	2
あいち診療所 滝の水	2
大府ファミリークリニック	2
ナラクティブクリニック みどり診療所	2
みずほ在宅支援クリニック	2
すこやかクリニック	2

	2020年度	2021年度
名古屋 市内	154人	92人
県内	41人	54人
大学病院	33人	17人
がん センター	14人	6人
県外	4	1

この2年間に、
102の施設より
ご紹介いただきました。

～緩和ケア病棟のご利用について～

「最期まで自分らしく生きたい」
 「最期まで住み慣れた地域で過ごしたい」
 南生協病院緩和ケア病棟はその願いをサポートします。



- ◆ がんの辛い症状をコントロールするために
- ◆ 最期の限られた時間を穏やかに過ごすために

また、ベッドの空き状況に応じて、下記のような場合も、緩和ケア病棟をご利用いただけます。ご相談ください。

- ◆ 在宅での療養が困難な場合
 一時的にご入院いただき、体調が戻られたら、再度ご自宅で過ごしていただくことができます。
- ◆ 今後、緩和ケア病棟の利用を検討されている方の短期体験入院として
- ◆ 介護者のご都合による社会的入院

【緩和ケア病棟のご利用までの手順】

- ① 紹介元の医療機関にて、診療情報提供書・各種検査結果などの準備をお願いします。
- ② 入院前の事前面談として、「緩和ケア外来」のご予約をおとりください。
 総合病院南生協病院 相談連携室 TEL：052-625-0559
 緩和ケア外来：毎週火曜日の午後、木曜日の午後（月2回）
 ご家族だけの面談も可能です。
- ③ 「緩和ケア外来」に受診し、緩和登録をします。
 緩和登録後にすぐの入院を希望される場合は、ベッドの用意ができ次第、入院のご案内をします。

【緩和ケア外来受診時に、持参して頂くもの】

- ・ 他院にて発行の診療情報提供書
- ・ 他院にて実施の画像診断の検査結果（CD-R、DVD-Rなど）
- ・ 保険証（本人不在にてご受診の場合は、自費診療5,000円+税）

他の医療機関で療養されていて、当院緩和ケア病棟の利用をすぐに希望しない場合は、利用を希望されるタイミングで、ご連絡ください。

その他何かご不明な点・お困りごとがありましたら、南生協病院緩和ケア病棟にお問い合わせください。

南生協病院代表電話：052-625-0373



総合病院 南生協病院

緩和ケア病棟

住所 〒459-8540

名古屋市緑区南大高2丁目204

連絡先 Tel (052)625-0373

e-mail ☐ kanwa@minami.or.jp